

にしづかこふん 12. 西塚古墳

所在地：若狭町脇袋

調査原因：史跡整備にともなう範囲確認調査

調査期間：令和2年10月5日～12月28日

調査主体：若狭町歴史文化課

調査面積：126 m²

時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 西塚古墳は、古墳時代中期後半の全長74mの前方後円墳です。大正5年(1916)に現在のJR小浜線の敷設工事にともなう土取りで、墳丘の大半が削平されました。しかし、その土取りの際に後円部から横穴式石室が露出し、多種多様な副葬品が発見され、その後、西塚古墳は昭和10年(1935)12月24日に国指定史跡となりました。今回の発掘調査は、西塚古墳の復元整備にともなう史跡範囲の再指定を目的とした範囲確認調査です。調査にあたり、計6か所の調査区を設定しました。発掘調査の結果、北陸地方最古級の人物埴輪及び馬形埴輪や各種遺構を確認しました。

遺構 西塚古墳の前方部前端裾・前方部東側裾・後円部裾及び基底石・周濠斜面を確認しました。

そして、6調査区から、本発掘調査で初めて陸橋状の遺構を一部確認しました。幅は約1m20cmで、検出した位置から勘案するために水位を調整するために作られた遺構の可能性が高いです。

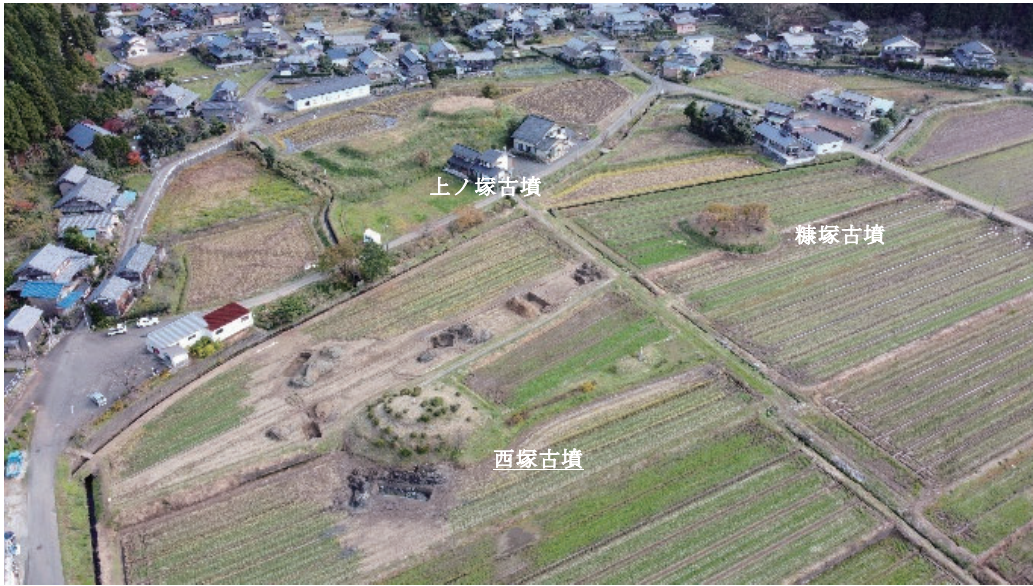
遺物 西塚古墳からは、円筒埴輪をはじめ朝顔形埴輪、家形埴輪といった埴輪が出土しており、これらの埴輪は過去の調査でも出土しています。さらに、本発掘調査で新たに人物埴輪と馬形埴輪が出土しました。北陸地方において、この時期に属する人物埴輪と馬形埴輪は発見されておらず、最古級の埴輪です。

人物埴輪と馬形埴輪は、2調査区から出土しました。出土状況から周濠の外側から一気に転落したと考えられます。つまり、周濠の外側に人物埴輪や馬形埴輪などの形象埴輪が樹立していたと考えられます。

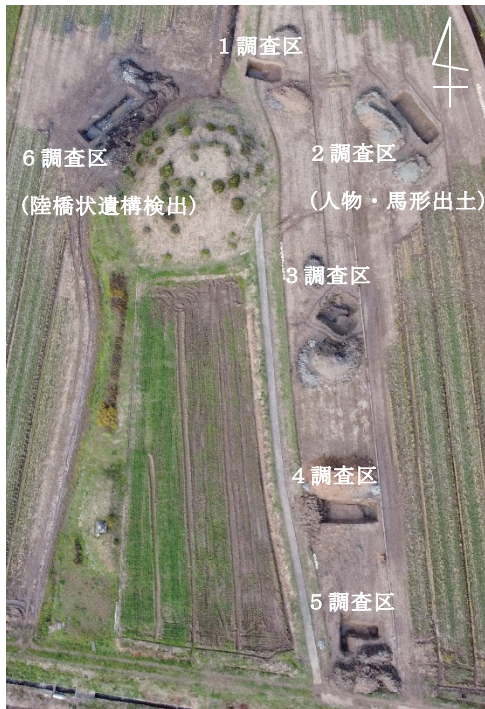
まとめ 発掘調査から、西塚古墳の新たな姿を窺い知ることができました。まずは、2調査区から出土した人物埴輪と馬形埴輪です。両埴輪の出土状況から周濠の外側に人物埴輪や馬形埴輪などの形象埴輪が樹立する区域が存在していた可能性が高いです。もし、このような区域が発見されれば北陸地方では初めての事例となります。

そして、陸橋状遺構の発見です。この遺構は水位調節用の遺構と考えられ、東側から西側にかけて傾斜する立地に築かれた西塚古墳の排水処理の工夫を指摘できる貴重な発見です。

(近藤 匠)



脇袋古墳群 空中写真(北西から)



西塚古墳 垂直写真



円筒埴輪出土状況(3 卜調査区)



陸橋状遺構検出状況(6 調査区)



人物埴輪



馬形埴輪